

9 重要なメッセージ

以上の調査結果から、がん患者や家族、医療者、社会・医療機関に役立つメッセージをまとめると以下ようになる。将来的には、がんの種類に応じてまとめたメッセージが必要である。

患者や家族へのメッセージ

- ☞ すべてのがん患者は、著しく多様な悩みや負担を抱えている。しかし、同時に、多くの患者が、その悩みと正面から向き合い、克服しようと自ら努力している。
- ☞ 先人の経験を知ることで、心の準備ができる。
- ☞ 正しい情報を知ることで、解決する悩みもある（治療したのに、再発・転移への不安を持つことなど）。ひとりで悩まず、相談する。
- ☞ がん体験者は、治療後、年数がたっても、心の中に不安を抱えていることを家族は理解するべきである。

医療者へのメッセージ

- ☞ がんの告知、その後の治療、経過観察など、時期に応じて、悩みの種類は変化する。
- ☞ がん患者の悩みには、「相談する悩み」と「相談しない悩み」の二種類がある。「相談しない悩み」があることを認識すべきである。
- ☞ がん患者は、元気に外来通院していても、心の中には悩みを抱えている。良好なコミュニケーションのためには、「心配事はありませんか？」という問いかけが大切。
- ☞ 治療したと思われる患者には、その旨を明確に告げ、「再発・転移の不安」を防止する。
- ☞ がんの種類によって、特徴ある「症状・副作用・後遺症」に悩む患者は多い。それらを可能な限り減らし、和らげる治療を実施する。

- ☞ 「症状・副作用・後遺症」により、食事・排泄などの日常生活に大きな影響が及ぼされている事実を認識し、患者の訴えに耳を傾け、必要なケアを試みる。
- ☞ がん患者は、医療技術者との関係の改善を望んでいる。
- ☞ がん患者は、多くの場合、家族の支援に感謝しているが、時には、家族の支援を受けられず苦しんでいる。
- ☞ がん患者は、悩みを克服するための自助努力の重要性を認識している。それを支援することは大切。

社会・医療機関へのメッセージ

- ☞ 医療相談や心のケアのためのシステム整備が必要。
- ☞ 後遺症に対応する診療科が必要。
- ☞ 介護する家族の精神的・身体的ケアが必要。
- ☞ がん診療に関わる情報提供は、悩みの軽減につながる。
- ☞ 経済的な支援制度に関する情報提供は重要。
- ☞ 退院後、治療が継続され、それが長引くにつれ、医療費や就労などに関連した経済的、社会的な悩みが拡大する。
- ☞ がん患者の多くは、高齢であるため、定年後などの理由で収入は少ない。
- ☞ がんのために、職場を退職し、事業を廃業する例がある。数は少ないが、解雇されたという悩みもある。
- ☞ 同病者との交流、患者会への参加は悩みの軽減に役立つ。